

網走湖呼人地区かわまちづくり

計 画 書

令和 7 年 6 月

網 走 市

<様式 2>

かわまちづくりの概要

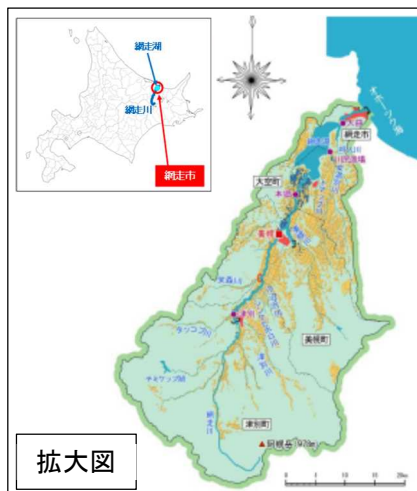
1. 市町村の概要

- | | |
|--------|------------------------------|
| ①都道府県名 | 北海道 |
| ②市町村名 | 網走市 |
| ③人口 | 32,253 人（令和 6 年 11 月 30 日現在） |
| ④面積 | 470.84km ² |

2. 河川の概要

網走川は、その源を阿寒山系の阿幌岳（標高 978m）に発し、津別町、美幌町、大空町、網走市を経てオホーツク海に注ぐ幹川流路延長 115km、流域面積 1,380km² の一級河川です。網走湖は、面積 32.3km²、最大水深約 16m の汽水湖であり、潮汐によってオホーツク海の海水が流入し、上部が淡水層、下部が塩水層の二層構造となっています。

網走市は、世界自然遺産の知床や阿寒、大雪山の 3 つの国立公園に囲まれた網走国定公園の中心に位置しており、市街地近くには、知床連山を眺望できる名勝天都山があり、緑豊かな市街地を形成しています。網走湖畔の水辺空間には呼人浦キャンプ場や網走湖ポート場が整備され、呼人地区は国道 39 号線で網走市街地と結ばれており、近傍には観光交流施設やホテル等が点在しています。



①これまで実施済みの関連施策

・網走かわまちづくり事業（平成 28 年～令和 5 年）

網走市は、博物館「網走監獄」、「天都山展望台・オホーツク流氷館」等の観光名所が数多くあるものの、網走川沿いの観光・交流施設間の観光動線が橋等で分断されており、アクセスが良好ではないことから、河川管理用通路（ボックスカルバート）、取付道路、案内看板等の整備により、河川空間と商業・居住空間が一体となり、市民はもとより観光客にとっても魅力あるまちが創出され、かつての賑わいを取り戻す取組が実施されています。今後も関係機関とも連携して水辺の賑わい創出に向けた取組を行います。



ボックスカルバート



取付道路



案内看板

・呼人浦園地

呼人浦キャンプ場は、網走湖畔に位置する無料キャンプ場であり、夏場は多くの利用で賑わっています。網走湖に沈む夕日は絶景であり、カヤックや SUP 等のウォータースポーツの拠点や、網走市街地からも近いオホーツク観光の拠点にも最適な環境にあります。

近傍の網走湖ポート場は美しい自然と絶好のコンディションに恵まれ、直線往復 20km のロングトレーニングも可能なポート場として全国にも注目されています。1,000m コース×5 レーンの日本ローイング協会 B 級公認コースであり、令和 5 年度の全国高等学校総合体育大会（高校総体）のボート競技会場として使用されました。

・ミズバショウ群生地

網走市から大空町にかけての網走湖畔には、国内最大級といわれるミズバショウ群生地が広がり、例年 4 月下旬の雪解け時期に白い花が咲きます。網走湖の東湖畔の中央部から突き出している呼人半島には「呼人探鳥遊歩道」が整備されており、散策しながら大自然を満喫できます。呼人半島は鳥獣保護区に指定されており、貴重な鳥類のバードウォッチングを楽しむことができます。



呼人浦キャンプ場



網走湖ボート場



ミズバショウ群生地

②市民や民間事業者の河川利活用状況

網走湖呼人地区では、呼人浦キャンプ場を中心に、夏はキャンプ・デイキャンプ、カヌー等の水辺アクティビティ、冬はワカサギ釣り、ファットバイク等、網走湖と自然の恵みを利用した様々なアクティビティが年間を通じて展開されています。

・コネクトリップ (Connectrip)

網走湖畔を拠点として周辺地域の地域産業を支える人々とのふれあい、進化する産業の今、地域の歩んできた歴史、民俗、観光地、それらすべてを connect (コネクト) した trip (旅) として、非日常を楽しむアクティビティから、ありのままの町の産業を体験できるツアーが提供されています。

・オホーツク SEA TO SUMMIT

人力のみで海 (カヤック) から里 (自転車)、そして山頂 (登山) へと進む中で、自然の循環に思いを巡らせ、かけがえのない自然について考えようという環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」が毎年開催されており、呼人浦キャンプ場がカヤックのスタート地点となっています。

・オホーツク流水ライド

極太タイヤのファットバイクで、流氷と雪、氷の上のライドを楽しむという冬のオホーツクでしかない専属ガイド付の体験ツアーであり、遠くに雪をかぶった知床の山々や流氷の接岸するオホーツク海を眺めながら雄大な大自然と一体になる体験することができます。

・ワカサギ釣り

例年 1 月上旬から 3 月下旬まで網走湖で「網走湖ワカサギ釣り」が開催されており、会場となっている呼人浦は水深が 2~3m と浅く、初心者でも釣りやすくファミリー向けとなっています。

1 月下旬に開催される「日本一網走湖ワカサギ釣り選手権大会」は、3 人 1 組のチームで 2 日間に釣り上げたワカサギの総重量を競う大会であり、北海道内外からの多くの参加者で賑わっています。



オホーツク SEA TO SUMMIT



オホーツク流水ライド



ワカサギ釣り

3. かわまちづくりの方針

①地域における課題、必要性

網走市は、未曾有の感染拡大をもたらした新型コロナウイルスの影響による大幅な観光入込客数の減少から回復傾向にあるものの、平成10年度のピーク時に比べて約100万人減少しており、依然として周辺の地域経済への影響が懸念されています。

網走湖にはミズバショウ群生地等の豊かな水辺環境が広がり、大曲湖畔園地、ホテル、キャンプ場等の観光交流施設が点在しているものの、それらを繋ぐ観光動線の整備が不十分な状況にあります。

また、網走湖は網走中心市街地から約7km離れており交通アクセスが良好でないため、効果的な誘客が行われておらず、網走湖の持つ観光ポテンシャルを十分活かし切れていません。

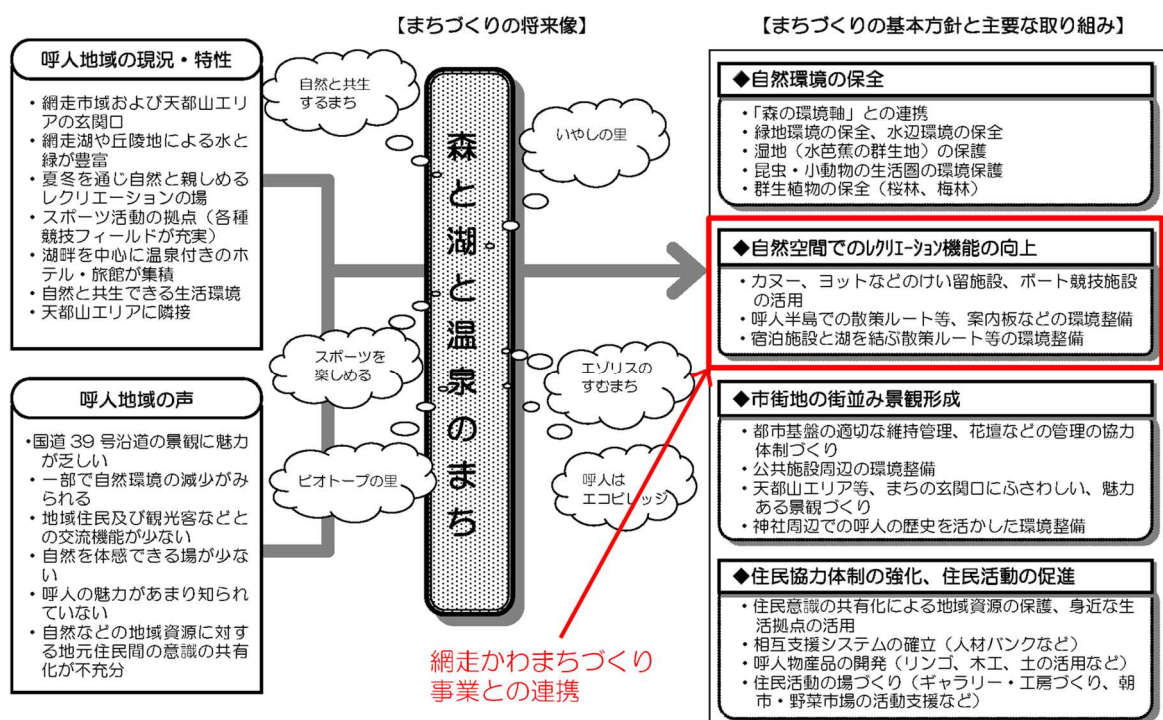
これらの課題を踏まえ、網走湖呼人地区まちづくり計画で取り組む利活用拠点化と水辺整備を一体的に進め、網走湖周辺に点在する観光交流施設を動線で結ぶことにより施設利用の増大を図るとともに、豊かな自然環境と融合した多様な利活用を行うことにより広域的なレクリエーション空間を形成し、網走湖の水辺空間の賑わい創出による地域の活性化を目指します。かわまちづくりを推進することにより、「自然景観を楽しみたい」「水を使った遊びがしたい」「水辺で非日常を体験したい」等の潜在的なニーズへの対応、網走湖周辺の観光ネットワーク構築が期待できます。

②網走市の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

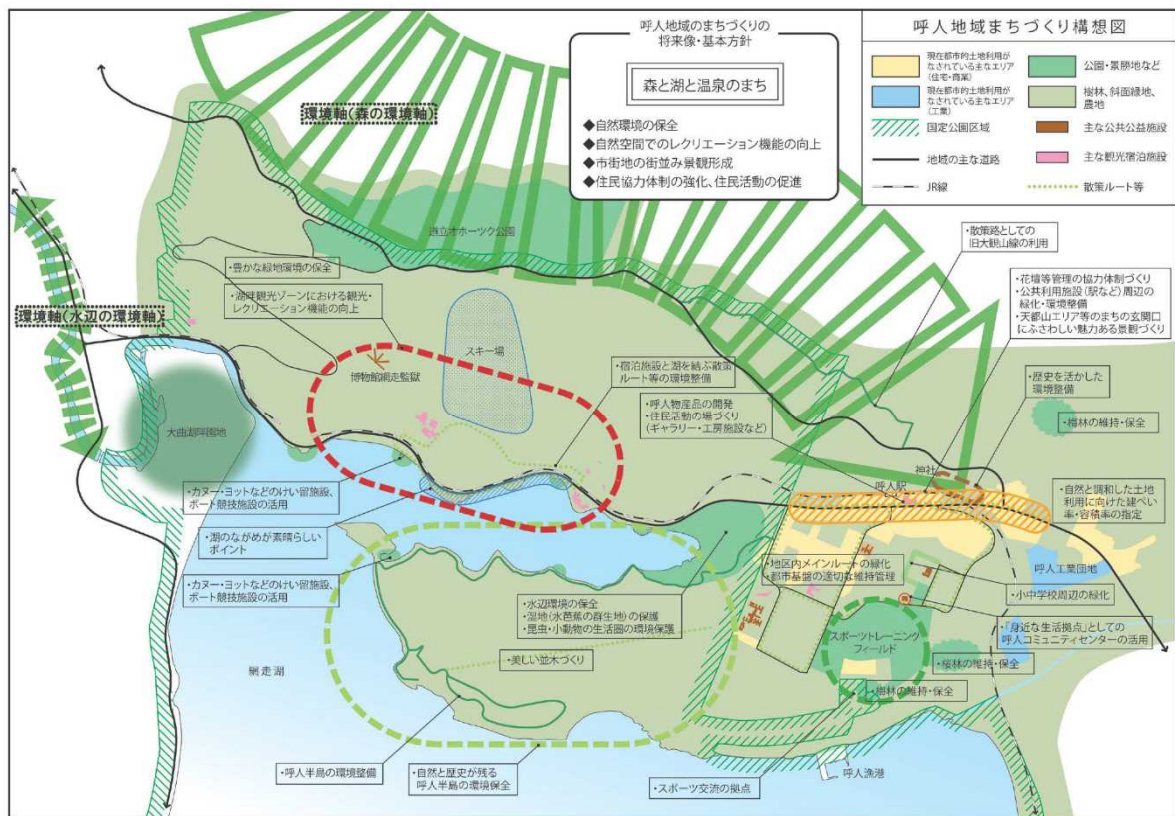
網走市は、網走川と深い関わりを持って発展しており、平成29年に改定した「網走市都市計画マスタープラン」では、「自然をいつくしみ、こころ豊かに市民がつどい、オホーツクの文化を創造するまち・網走」を基本理念として、「豊かさを実感できるまち」「自然を守り、育てるまち」「人と人の交流があふれるまち」を目標としています。

網走湖からオホーツク海に繋がる網走川沿いの自然軸を「水辺の環境軸」と位置づけ、今後とも「かわまちづくり」の一環として散策路等の環境整備等、都市拠点の魅力向上を図っていくとともに、網走湖に面する呼人地域と、森林エリアにおける2つの道道（大観山公園線・中園網走停車場線）を經由して網走市街地を連絡する自然軸をもう一つの環境軸「森の環境軸」として位置づけ、網走の新たな魅力を体感できるエリアとしての活用を図っています。

網走湖の呼人地区では、アクティビティを中心とした水辺空間の観光利活用推進による賑わいの創出を目指すとともに、網走川における新たな観光拠点の構築による網走市街地～網走湖の観光交流人口の増大が推進されており、網走市のまちづくりにおいて網走湖は重要な役割を担っています。



「網走市都市計画マスタープラン」における網走湖呼人地区のまちづくり構想



「網走市都市計画マスタープラン」における網走湖呼人地区の環境軸

③地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する網走市や民間事業者の考え方

網走市では、「第2期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標のひとつに「観光や健康・スポーツなど、網走の地域特性を活かした交流・関係人口の拡大」を挙げており、スポーツツーリズム・アドベンチャーツーリズムの推進等に取り組んでいるほか、「網走市起業・事業展開等支援事業補助金」の制度を活用した新たな民間事業者の誘致等も予定しています。

また、中心市街地の賑わいを取り戻すため、民間事業者が中心となって、空き店舗のゲストハウス・コワーキングスペースへの活用やふるさと納税への参画事業者拡大等が進められています。

また、網走市は、アウトドア事業者「株式会社モンベル」と平成30年4月13日に包括連携協定を締結し、自然の恵みを生かしたアウトドア活動等の促進を通じた地域活性化と住民生活の質の向上を目指しています。

④地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

網走湖畔の水辺空間を整備し、年間を通じた新たなアウトドア・スポーツイベントの企画や観光客の誘致等により、かわまちづくりとして年間約5万人^{※1}の集客を目指します。

また、現行の網走かわまちづくりと連携し、網走湖畔の水辺空間を活用したサイクリングイベントの企画やサイクリングを活用したアウトドア体験学習の誘致等により、かわまちづくりとして道の駅「流水街道網走」において年間約500台^{※2}のレンタサイクル貸出を目指します。

※1：網走市観光入込客数に占める呼人浦園地利用者数の割合：

新型コロナウイルス感染症拡大前（平成12年度～令和元年度の平均）：22.2%

新型コロナウイルス感染症拡大後（令和2年度～令和5年度の平均）：15.7% ⇒目標：19.0%

網走市「観光デジタルマーケティング・プロモーション事業」目標値：151万人

網走市年間集客目標に対する呼人浦園地利用者数（想定）

新型コロナウイルス感染症拡大後（令和2年度～令和5年度の平均）：23.7万人（=151万人×15.7%）

かわまちづくりによる目標：28.7万人（=151万人×19.0%）⇒5万人増

※2：呼人浦園地利用者数に占める道の駅「流水街道網走」レンタサイクル貸出台数の割合：

新型コロナウイルス感染症拡大前（平成30年度～令和元年度の平均）：0.25%

新型コロナウイルス感染症拡大後（令和2年度～令和5年度の平均）：0.62% ⇒目標：1.0%

かわまちづくりによる呼人浦園地利用者数の増分：5万人

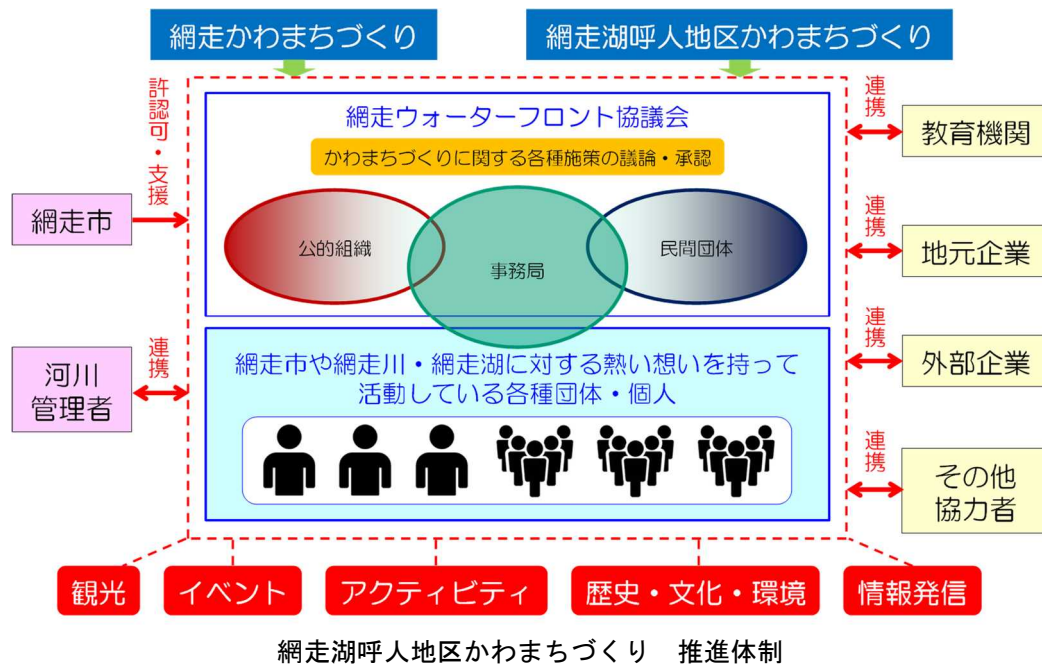
かわまちづくりによる道の駅「流水街道網走」レンタサイクル貸出台数の目標：500台（=5万人×1.0%）

4. 推進体制・取組内容

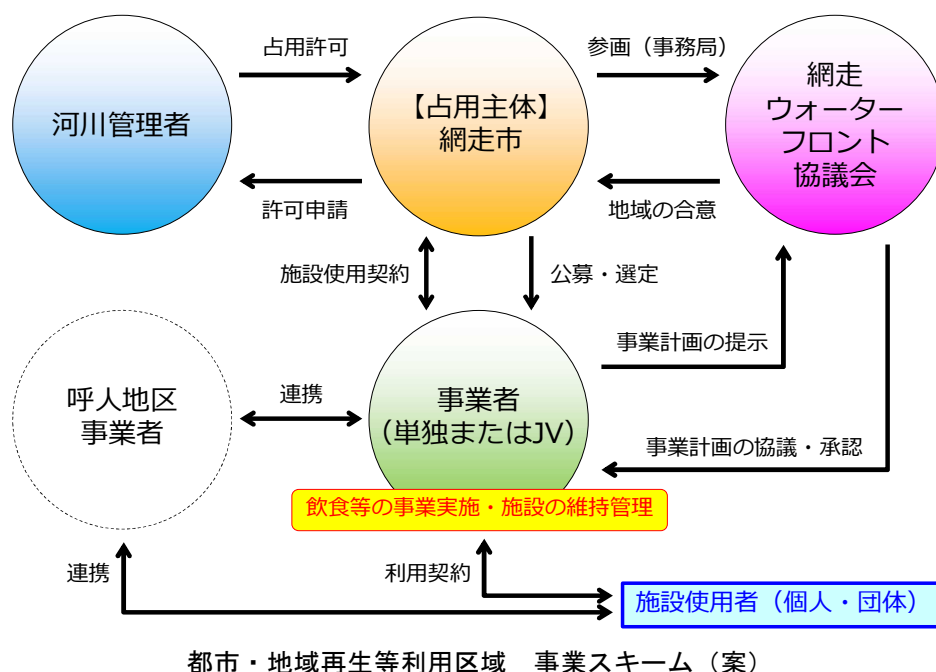
①協議会、運営組織等の体制

網走市では、平成 27 年 10 月に NPO、地元住民、河川管理者等で構成する意見交換会の場として「網走かわまちづくり検討会」を設置し、網走川・網走湖沿いの賑わいを創出し地域を活性化するための様々な施策を議論・検討してきました。

令和 2 年 8 月に、検討会から移行する形で「網走かわまちづくり協議会」を設置し、その後、網走港西防波堤整備に伴う防波堤等の利活用についても議論・検討することとし、令和 5 年 1 月に「網走ウォーターフロント協議会」に名称変更し、かわまちづくりにおける整備内容や利活用、維持管理計画を議論しています。



また、かわまちづくり事業範囲内で、既に指定されている都市・地域再生等利用区域の拡大や周辺地域との連携について検討を進めており、以下に示すような事業スキーム（案）により、民間事業者等の河川空間での活動を推進していきます。



②地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容

網走市では、市内小学生・教育委員会・北海道開発局・民間事業者やボランティアスタッフが参画する「あばしり学講座」を開催しており、水辺等での環境教育が推進されています。

網走セーリング協会は、オホーツク海や網走湖の素晴らしさを多くの人々に伝え、親しむことを目的とし、海の日制定をきっかけに「オホーツク・海上がっこう」体験乗船会」を毎年開催しています。

網走サイクリング協会は、網走湖畔の一部を使用した「オホサイ（オホーツクサイクリング）」を関係機関と共催しており、網走湖周辺のサイクリング利用が図られています。



あばしり学講座



体験乗船会



オホサイ

5. 安全な河川利用に向けた取組

・河川利用者に対する安全面の指導体制

地元主体の河川の環境教育を行っていくほか、水難事故の防止に向けた安全教育については、川の指導者育成の推進を図っており、公認スポーツ指導者登録や普通救命講習修了証を有した団体と取り組んでいます。

川でのアクティビティを安全に行うとともに人材育成のため、「北海道 e-水プロジェクト」の助成を受けて「網走川流域の会」が網走川で「RAC アシスタントリーダー研修会」を開催しており、連携しながら継続していきます。

網走湖を利用する際にはライフジャケットの着用を指導するほか、運動靴の着用を推奨し転倒等による事故防止に努めています。一般的な網走湖の特性を利用前に説明し、理解を深めた上で利用してもらうようにしています。



・河川利用者が安全確保を図るための取組や情報提供

毎年、河川管理者による安全利用点検を行い、危険箇所があれば補修等を行っています。また危険な箇所等には看板を設置し、河川に近づかないよう情報提供しています。

6. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

・都市・地域再生等利用区域の指定に向けた、公募や河川敷地の利用調整に関する会の取組

平成 30 年に、民間事業者や第一次産業の従事者が中心となり「オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会」が設立され、交流拠点の環境整備、ガイド人材の育成、ツアー造成等が実施されています。その後、観光交流の促進・産業振興の更なる発展を目的に、都市・地域再生等利用区域が指定されています。

今後、網走湖の特徴を活かし、民間事業者がアクティビティの体験ツアーやスクール等の活動や SUP・カヌー等の水上アクティビティが楽しめるように整備するとともに、呼人浦キャンプ場等の網走湖畔で民間事業者がキッチンカーやオープンカフェ等を営業できるよう、都市・地域再生等利用区域の拡大について検討し、「第 6 期網走市総合計画」とかわまちづくりの連携による周辺観光交流施設との相乗効果、網走湖呼人地区周辺と網走市街地との周遊性の向上と拠点ネットワークの形成を図ります。



民間事業者のカヤックツアー

・都市・地域再生等利用区域の指定年月日

令和 3 年 10 月 27 日

7. 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

網走湖では青潮、アオコが発生し、魚類等の生息環境に影響を及ぼしているため、「網走川水系網走川水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」を策定し、網走湖の水質改善に取り組んでいます。オホーツク海から網走湖への海水の流入を抑制し、塩淡水境界層の上昇を防ぐことで青潮やアオコの発生を抑えるための施設「網走川大曲堰」を平成25年3月に整備し、平成26年1月より本格運用を行っています。



網走川大曲堰

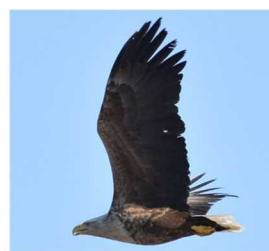
また、網走湖は、ヤマトシジミ、ワカサギ等の水産資源が豊富であるほか、オジロワシ、オオワシ、タンチョウ等の希少鳥類の生息・繁殖が見られ、網走湖の生態系は、湿地やハンノキ等の湿性林、湖沼環境に依存し、特に湿地環境は、タンチョウ等の生息・繁殖・育雛の場、湖内生態系への餌資源の供給源となることから、湿地環境の保全・創出に向けた取り組みを行います。



ミズバショウ群落



アオサギ



オジロワシ



ヤマトシジミ



網走湖を中心とする湖沼生態系のイメージ

<様式3>

ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
網走川水系網走湖
2. 施策の実施範囲
網走湖 呼人地区
3. 施策概要
【民間事業者の誘致】 ・地域の歴史・文化や市民のニーズを踏まえ、アウトドア事業者等と連携して、夏季の SUP、水上ヨガ体験や冬季の網走湖の凍った湖面を活用したファットバイクやスノーランニング等、水辺空間を活用した新たなイベント・アウトドア利用を企画・実施します。 ・都市・地域再生等利用区域において、民間事業者が水産加工品等の網走の特産物を販売できるようにし、民間事業者等と連携して特産物の PR を行います。 ・SUP やカヌー等の水辺アクティビティ・自然体験等の民間事業者と提携し、網走湖畔での雪上キャンプ等のイベントを企画し、網走湖畔でちょっとした非日常を体験できるようにします。  水上ヨガ  特産物販売  雪上キャンプ 【持続した利活用に向けて】 ・網走湖の歴史・自然を学ぶ体験学習の連続講座や河川管理者と連携した水防講座、「あばしりまなび塾」との連携を通して、様々な世代が川と触れ合いながら川の歴史・自然等を学ぶ環境教育を推進します。 ・Facebook、Instagram、YouTube 等の SNS やインターネットコンテンツ、QR コードを活用して、網走湖の水辺利用モデルコースや網走湖の自然等に関する情報発信・広報活動を行います。 ・網走湖畔で想定される水辺アクティビティ利用に対応したルール作りを行い、PULL 型・PUSH 型情報発信による注意喚起・周知を行います。 ・冬季に利用できるメニューを企画することにより 1 年を通じて継続的に利用できるようにします。  利用ルール（他河川事例） 【周遊性向上】 ・散策やサイクリング等、様々な志向の人が気軽に利用できるよう、網走湖と周辺の観光交流施設をつなぐ多様なアクティビティのモデルコースを設定するとともに、初心者・中上級者向けサイクリング・ジョギング・ランニング推奨コースマップの作成やサイクリング・マラソン大会を企画し、各施設間の利活用の相乗効果を図ります。 ・北海道の広域基幹サイクリングルート「オホーツクサイクリングルート」やジャパンエコトラク広域サイクリングルート「網走満喫サイクリングルート」がかかわまちづくり事業範囲の近傍に設定されていることから、それらを通じて網走市に訪訪するサイクリストが、呼人浦園地で休憩や自転車のメンテナンスができるよう、サイクルステーション等の拠点整備を行います。

・網走市では、網走川を中心として網走の歴史・文化・自然・景観を楽しみながら巡るレンタサイクルの推奨コースを設定しており、上記の広域基幹サイクリングルートと相互連携しながら、網走湖畔を拠点とする広域的なサイクリング周遊ネットワークの構築を図ります。



サイクリング大会



マラソン大会



グルメライド



サイクルステーション



サイクルラック



サイクリングマップ

川内川

スマホといっしょに川へ出かけよう。

スマホで楽しむ!

川内川

スタンプラリー

7/20 - 10/19

対象エリア 羅摩川内市 / さつま町 / 伊佐市 / 湧水町 / えびの市

川内川流域の歴史・文化・物産など観光情報が盛りだくさんのデジタルマップが完成しました!
マップの完成を記念して豪華特産品が当たるデジタルスタンプラリーを開催します!!

112名様に当たる! 豪華特産品をプレゼント!

獲得したスタンプ数に応じて、3つのコースから応募いただけます。
当選者の発表は賞品の発送をもってかさせていただきます。

- スタンプ7個 50,000円相当 2名様
- スタンプ5個 10,000円相当 10名様
- スタンプ3個 3,000円相当 100名様

※各賞品の応募は1人1回です。応募資格を要しない応募はできません。

川内川流域スタンプラリー運営事務局
(高知市東山 地域未来館内)
TEL. 099-813-5022 10:00-17:00(土休無休)

川内川水系かわまづくり推進協議会
かわまづくり観光振興部会

参加方法

step1 川内川をドライブして、スタンプラリースポットへ向かいます。

step2 スポット内に設置されたQRコードを読み取ります。

step3 最大で10スタンプ集められ、「景品と交換」から応募をお願いします。

step4 応募者の中から抽選で、川内川流域の特産品を各1名にお届けします。

スタンプラリースポット一覧

羅摩川内市 新市 羅摩川内	羅摩川内市 SOKO KAKAKA	さつま町 川内川流域観光センター
さつま町 安之郷ふりしん	伊佐市 羅摩川流域観光センター	伊佐市 お山の産物店 伊佐
湧水町 くろの物産館	湧水町 吉松物産館 ふれあい市場	えびの市 アウトドアステーションえびの
えびの市 伊佐市観光センター		

スタンプラリー期間終了後もデジタルマップは変わらずお使いいただけます。

川内川の魅力がたくさん詰まっていますので、どんどん活用して、あなただけの川内川の楽しみ方を見つけてください。

スマートフォンを活用したデジタルスタンプラリー（他河川事例）

(参考) 位置図

夏季においては、都市・地域再生等利用区域周辺を起終点とするミズバショウ群生地や呼人半島へのカヌーツアーや、呼人半島での自然体験等のアクティビティを実施します。

網走湖畔の河川管理用通路は、市街地から呼人浦キャンプ場～ホテル施設を周遊する観光コースとして位置づけ、散策やサイクリング、スポーツ大会等のイベントを推進します。



冬季においては、都市・地域再生等利用区域周辺を雪まつり等のイベントで利用可能な「アクティビティゾーン」として位置づけ、イグルーキャンプや氷上でのアクティビティ等を実施します。

網走湖畔の河川管理用通路は、呼人浦キャンプ場～ホテル施設を周遊するスノーシュー・ファットバイクコースとしての利用を推進します。



呼人浦園地と一体となって網走湖畔の水辺空間を整備し、カヌー等の様々なアクティビティや年間を通じたイベントの企画により、網走市街地への来訪者や周辺のホテル施設の宿泊客、地元住民を水辺に誘導し、網走市の観光入込者数の増加を図ります。

アウトドア事業者等のノウハウを活かした各種施策により、年間を通して、呼人浦園地へ来訪する観光客や周辺のホテル施設の宿泊客が網走湖畔でちょっとした非日常を体験できる親水空間、地域住民が集い憩うコミュニティ空間による賑わいを創出します。



オホーツク流氷館



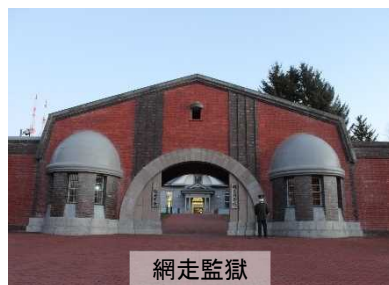
北海道立北方民族博物館



北海道立オホーツク公園
てんとらんど



フラワーガーデンはなてんと

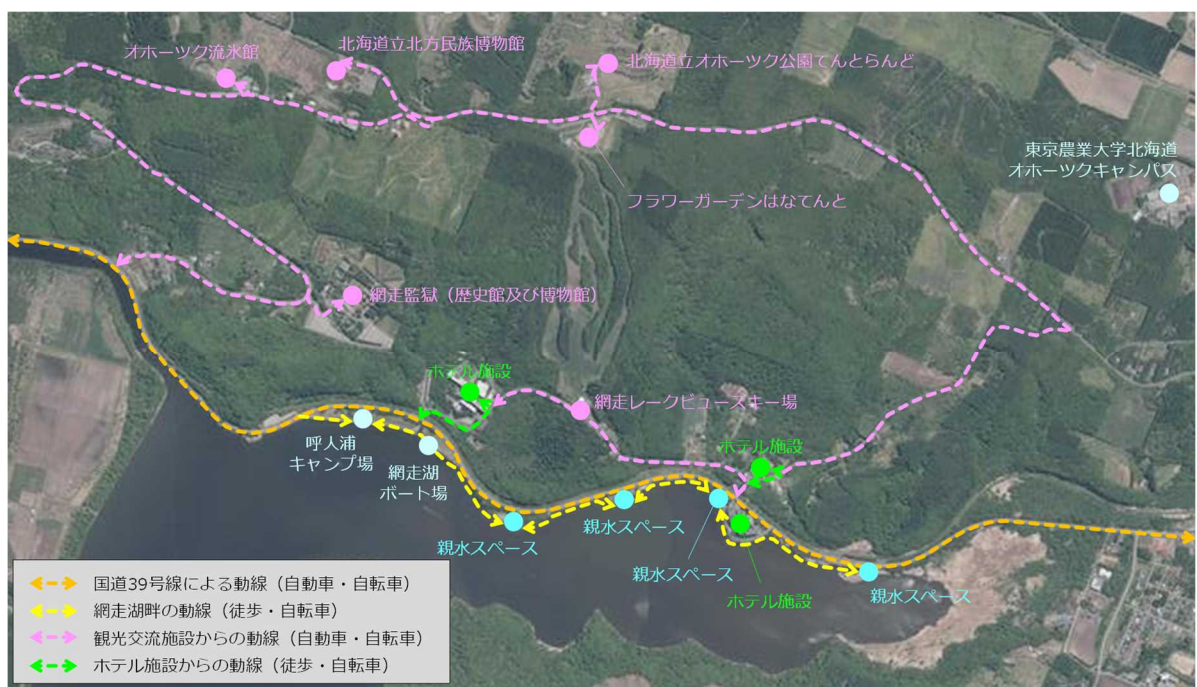


網走監獄



網走レークビュースキー場

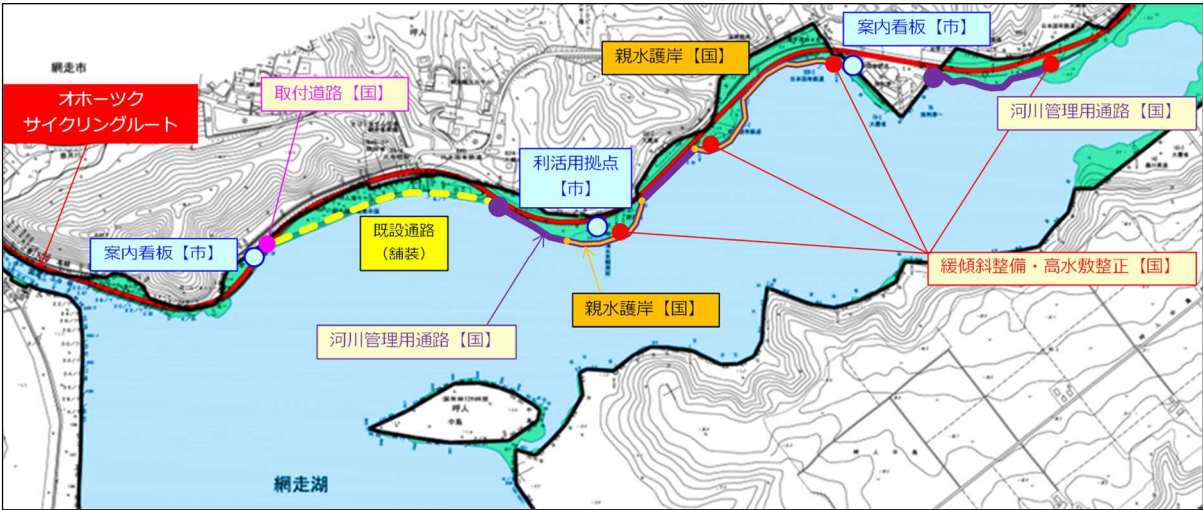
網走湖呼人地区周辺の主な観光交流施設



網走湖呼人地区における各施設間の観光動線イメージ

<様式 4>

ハード施策の個別整備計画書

1. 河川名
網走川水系網走湖
2. 整備範囲
整備内容：【国】河川管理用通路、親水護岸、緩傾斜整備・高水敷整正、取付道路 【市】利活用拠点、案内看板  整備予定箇所図
3. 整備内容
呼人地区を網走湖における地域観光の拠点に位置づけ、観光客を積極的に誘致し地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信するとともに、日常的に水辺を利用してもらい、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいを創出するため、網走湖の水辺整備を実施します。 【現在の状況】 網走湖呼人地区の近傍を国道 39 号が通っていますが、国道 39 号の歩道から水辺までの間に繁茂した樹木があり、歩道と呼人浦園地の園路、水辺の河川管理用通路が繋がっていないなど、水辺へのアクセス性が良好ではなく水辺の移動の連続性が確保されていない状況です。 また、網走湖畔に水辺アクティビティの利活用拠点が点在していますが、それらの連携や有効活用を望む地元からの要望が挙がっています。    水際の繁茂状況 呼人浦園地園路と国道の接続部 ホテル施設近傍の船着場 【整備実施後】 河川管理用通路・取付道路を整備することにより、網走湖畔までのアクセス性が向上するとともに、網走湖畔に親水護岸・緩傾斜を整備することにより、水遊びやカヌー等の昇降が容易になります。 また、既存施設を網走湖畔における利活用拠点や観光交流施設として有効活用することで、賑わいの創出が期待できます。案内看板の設置により周辺の観光交流施設利用者を網走湖畔に誘導し、網走湖周辺の周遊性向上が図れます。

・河川管理用通路（国）

網走湖畔の水辺の連続性の確保や新たな観光動線の創出を目的として、呼人浦キャンプ場から網走湖畔のホテル施設までの水辺に河川管理用通路を整備し、夏季のサイクリングや散策、冬季のフットバイクのルートや、網走湖でのボート大会開催時の伴走路として活用します。

・親水護岸・緩傾斜整備・高水敷整正（国）

水遊びやカヌー等の昇降が容易になるよう、利活用を行う箇所に親水護岸（緩傾斜路、階段護岸等）を整備し、水辺の親水性・利便性向上を図るとともに、親水スペースとして網走湖畔に浅瀬・緩傾斜路・親水護岸・駐車スペース（高水敷整正）を整備します。

親水スペースは、イベント開催場所や水難事故時の救助活動拠点（救助艇の離発着場所等）としても活用します。

・取付道路（国）

国道 39 号と呼人浦キャンプ場を繋ぐ取付道路を整備し、網走市街地や周辺からのアクセス性向上を図ります。

また、高齢者や障がい者等が安全・安心に利用できるよう、周辺の景観との調和に配慮しつつバリアフリー・緩傾斜化を行います。

・利活用拠点（国・市）

既存施設を、水辺アクティビティやサイクリングの利活用拠点、水難事故時の救助活動拠点（スローロープや浮き輪等の緊急時用装備の備蓄等）として有効活用します。

親水スペースとしても利用可能となるよう、駐車スペース（高水敷整正）を整備します。



整備実施のイメージ（河川管理用通路、親水護岸・緩傾斜整備・高水敷整正、取付道路、利活用拠点）

・案内看板（市）

網走湖畔の河川管理用通路へ誘導する案内看板を整備します。

また、河川管理用通路に、周辺の観光交流施設までの距離や進行方向をサイクリング利用者等に注意喚起するためのピクトグラムを標示します。

案内看板のデザインについては、既に実施済みの「網走かわまちづくり」で整備した内容と整合を図ります。



整備実施のイメージ（案内看板：「網走かわまちづくり」による実施事例）

4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

網走川下流の市街地において「網走かわまちづくり事業」を実施しており、ボックスカルバート内の照明設備、案内看板や路面標示を整備しています。また、網走市では「第6期網走市総合計画」等に基づき、網走湖呼人地区の自然空間でのレクリエーション機能向上を目指し、散策ルート等の環境整備を行っています。こうした事業・計画を踏まえた整備により、網走市街地と網走湖が一体となった利活用の推進により、利便性の向上、網走川・網走湖の水辺空間の広域的な賑わいの創出を図ることができます。

・整備工程

種別	事業者	整備内容	年次						
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13～
拠点整備	網走市 北見河川事務所	・利活用拠点	計画登録				検討		モニタリング
施設整備	網走市	・案内看板					検討	整備	
水辺整備	北見河川事務所	・河川管理用通路 ・親水護岸 ・緩傾斜整備 ・高水敷整正 ・取付道路		検討		整備			

5. 多自然川づくりに関する事項

網走湖畔の湿地環境は、タンチョウ等の生息・繁殖・育雛の場、湖内生態系への餌資源の供給源となることから、湿地環境の保全・創出を図ります。

6. その他特筆すべき事項

かわまちづくり事業箇所の近傍で、北海道の広域基幹サイクリングルート「オホーツクサイクリングルート」やジャパンエコトラック広域サイクリングルート「網走満喫サイクリングルート」が設定されていることから、網走市に訪れるサイクリストが呼人浦園地で休憩や自転車のメンテナンスができるよう、サイクルステーション等の拠点整備を行います。また、網走市では、網走川を中心として網走の歴史・文化・自然・景観を楽しみながら巡るレンタサイクルの推奨コースを設定しており、広域基幹サイクリングルートと相互連携しながら、網走湖畔を拠点とする広域的なサイクリング周遊ネットワークの構築を図ります。

親水スペースは、利用者が水際の豊かな自然環境に触れ合うことができるよう、コンクリート護岸等による河岸整備は行わず、ヤマトシジミの生息・繁殖環境へ影響がない範囲で整備を行います。

【網走湖呼人地区かわまちづくりとSDGsの関係】

- ・網走湖呼人地区かわまちづくりの取組による、SDGs（国連持続可能な開発目標）で期待される効果は以下の通りとなります。



関連する SDGs の目標	かわまちづくりの取り組み
〔目標 3〕 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。	サイクリング、カヌー等の利用促進により、健康促進が図られます。
〔目標 4〕 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。	環境学習、地域の歴史・文化の学習等の場として寄与します。
〔目標 11〕 都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。	賑わいがあり、安全・安心な河川空間が創出されます。
〔目標 17〕 持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化する。	地域住民、事業者、関係自治体との連携が図られます。

1. 継続的な有効利用に関する計画

- ・「第6期網走市総合計画」等に基づき推進されている「網走湖呼人地区の自然空間でのレクリエーション機能向上」や「緑地機能の最適化を含むグリーンインフラの有効活用」の一翼を担うことで、日常的な利用の促進と継続的な有効利用を図ります。
- ・整備後においても、網走ウォーターフロント協議会、地元の活動団体、民間企業等が連携した四季折々のイベントを随時開催し、地域交流に寄与します。
- ・環境学習、イベントについて水質改善に関する取り組みに加え、川の防災教育としても利用できるよう地域の学校などの関係機関とも連携し、持続的な利用に取り組みます。
- ・既存の観光交流施設と連携し、集客性の向上を図ります。
- ・網走市がアウトドア事業者「株式会社モンベル」と平成31年4月13日に締結した包括連携協定を活かし自然の恵みを生かしたアウトドア活動等の促進を通じた地域活性化と住民生活の質の向上を目指します。



長天づくり体験



サケの水揚げ見学



株式会社モンベルとの包括連携協定



流水・氷瀑



網走刑務所

あばしり学講座

2. 維持管理計画

- ・施設の維持管理については、施設管理者が行います。
北海道開発局（河川管理用通路、取付道路、親水護岸、緩傾斜整備・高水敷整正）
網走市（利活用拠点、案内看板）
- ・日常的な施設管理、清掃等については、網走市と地元住民、活動団体が協力して実施するものとします。
- ・除草などの維持管理は、環境に配慮して実施します。



網走川流域の会による網走湖の一斉清掃